

EU Indicators

欧州経済指標コメント：7-9月期ユーロ圏GDP一次速報値

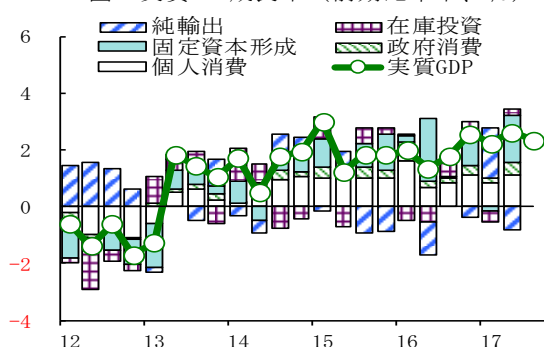
発表日：2017年10月31日(火)

～2017年の成長率は債務危機後の最高を更新へ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

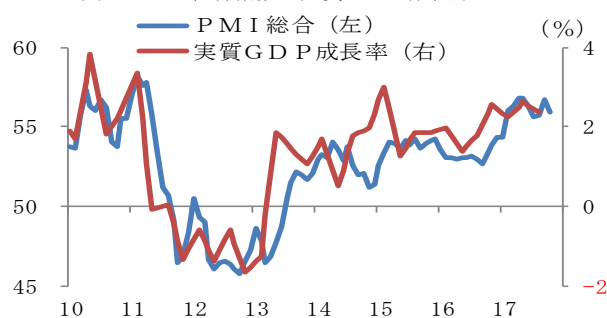
- 7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率の一次速報値は前期比+0.6%、同年率+2.4%と好調を継続。前期の同+0.7%、同年率+2.6%から僅かに成長ペースが鈍化したものの、潜在成長率を上回る高成長が持続。これで18四半期連続のプラス成長を記録。前年比の成長率も+2.5%まで加速した。
- 10-12月期入り後の景気指標は、10月のユーロ圏のPMI総合指数（50が好不況の分岐点）が55.9と前月の56.7から改善モメンタムが鈍化したものの、7-9月期平均（56.0）とほぼ不変の高水準を維持。発表元のIHS Markitによれば、10-12月期の成長率が前期並みか僅かな減速にとどまることが示唆される。ちなみに、10-12月期が前期比ゼロ成長でも2017年通年の成長率は+2.1%と債務危機後の最高を更新。10-12月期が前期比+0.5～0.7%成長の間になれば、何れも2017年の成長率は+2.3%となる。
- 国別の詳細は11月14日発表の二次速報値で、需要項目別の内訳は12月5日発表の改定値で公表される。既報の国別計数は、フランス（4-6月期：同+0.6%→7-9月期：同+0.5%）、スペイン（同+0.9%→同+0.8%）、ベルギー（同+0.5%→同+0.3%）、オーストリア（同+0.7%→同+0.6%）が揃って小幅鈍化した。需要項目別の内訳を発表済みのフランスでは、輸入増を主因に外需が成長を下押しした一方で、個人消費、政府消費、設備投資、在庫投資が揃って景気拡大を後押しした。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏：PMI総合指数と実質GDP成長率



注：実質GDP成長率は前期比年率。

出所：IHS Markit、Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需					外需		
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
15/10-12月期	2.9	1.8	(2.7)	1.9	1.2	6.4	(0.2)	▲ 0.9	4.0	6.6
16/1-3月期	2.5	2.0	(2.0)	2.9	3.3	1.1	(▲ 0.5)	0.0	2.0	2.1
16/4-6月期	1.7	1.4	(2.6)	1.2	1.1	11.3	(▲ 0.5)	▲ 1.2	4.5	7.9
16/7-9月期	2.3	1.8	(1.5)	1.5	0.8	0.2	(0.5)	0.2	2.3	2.0
16/10-12月期	3.9	2.6	(3.0)	2.1	1.4	5.9	(0.3)	▲ 0.4	6.3	7.9
17/1-3月期	2.9	2.2	(0.4)	1.5	0.7	▲ 0.9	(▲ 0.3)	1.8	5.4	1.7
17/4-6月期	4.0	2.6	(3.5)	2.1	2.0	8.3	(0.2)	▲ 0.8	3.7	6.0
17/7-9月期	—	2.4	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。